

白鷹町観光交流大使 青木実さんによる作品『紅の花』 「こころ歌」作詞／作曲コンテストにて入賞

歌謡曲ルネッサンスを旗印に、平成28年から開催されている「全日本こころの歌謡選手権大会」(田勢康弘代表)。

今年度は、第2回の歌謡選手権大会と同時に、初の試みとなる「こころ歌」作詞／作曲コンテストが開催され、町観光交流大使の青木実さんの作品が作詞部門にて入賞されました。

タイトルは「紅(べに)の花」。嫁入り前の母娘の心境を語った、切なくも心温まる1曲です。

11月4日開催の「産業フェア2018」において、植田光太さんによる「紅の花」の歌唱が発表されますので、ぜひおいでください。



田勢代表から表彰を受ける青木さん

「紅の花」

作詞：あおきまつく／作曲：小田純平

紅の花半夏(はんげ)の朝に咲くという
朝露の中ぼつんと一輪(ひとつ) 咲くという
女は伝えて伝えて花になる紅になる
閉じた睫毛を涙で濡らし
夏の朝(あした)にあなたは嫁ぐ
紅の花玉虫色にかがやいて
紅さず指がかすかに震え母想う
女は重ねて重ねて夢になる愛になる
心の棘がちくりと刺さり
母は遠くであなたを送る
紅の花 白い打掛引きずって
裾にひらりと紅(あか)い花びら見え隠れ
女は紡いで紡いで明日(あす)になる母になる
時が巡ればまた振り出しに
私の人生あなたに想う

青木さんよりコメント

ボクが白鷹町で出会った「紅花」。その素敵な世界を表現したく、嫁ぐ娘と母の心を紅花に託して詞にした『紅の花』。「全日本こころの歌謡選手権大会」の作詞コンテストで選んでいただき、さらに、小田純平さんが素敵な曲をつけてくれました。歌は植田光太さん。来年度の課題曲にも歌っていただけると嬉しいです。

東京五輪・パラリンピックに向け ホストタウンの推進本部を設立

町では、2020年の東京五輪・パラリンピックの開催を契機として、地域の活性化及び観光交流の拡大、スポーツの振興、教育文化の向上を図るため、昨年度よりプロジェクトチームを設置してホストタウンの登録に向けた取り組みを進めてきました。

そしてこのたび、ソフトボール競技で中国のホストタウンとして登録が認められ、9月28日に白鷹町ホストタウン推進本部が設立されました。



16人の委員で構成されたホストタウン推進本部

なお今年度については、中国ソフトボール協会関係者を招き、町内の施設等を視察してもらうほか、五輪出場経験のある日本人アスリートによる講演会や町内在住の中国出身者との交流会などを開催予定。ホストタウンとして取り組む目的や具体的な事例、どのように地域活性化へ結びつけていくのかを確認しながら事業を進めていきます。

食べて、遊んで、体験して—— しらたかの秋を満喫した3日間

9月22～24日の3日間、白鷹ヤナ公園あゆ茶屋を会場に「第42回白鷹鮎まつり」が盛大に開催されました。イベント期間中は、3日間で約3万人が来場。香ばしく焼きあがった鮎の塩焼きをはじめ、白鷹の自慢のグルメを堪能しました。

ウの皮飛ばし大会や餅つきにも多くの親子が参加し、笑顔で秋のひとときを楽しみました。さらに、しらたか産直愛菜館とどりのいむ農園直売所では、今年も「うんまえも」の茶屋を開催。安全・安心・おいしい秋の味覚を求める人たちが途切れなく来場しました。



1_多くの人で賑わう鮎まつり会場 2_香ばしく焼きあがった秋の味覚代表の鮎 3_のどか村ならではの体験が人気の工芸体験まつり

地域の子どもたちを温かく見守っています 白鷹町更生保護女性会が学校訪問

次世代を担う子どもたちの健全育成を願い、町更生保護女性会(梅津ツヤ子会長)が町内の全小中学校を訪問し、朝のあいさつ運動と社会を明るくするための啓発運動を行いました。

9月28日には、同会員16人が白鷹中学校を訪問。登校してくる生徒たち一人ひとりに「今日も一日元気ががんばって」などと声をかけました。梅津会長は、「活動(毎年行なっているが、年々子どもたちの表情が良くなっている。『地域のみんなが見守っているよ』という思いが少しでも届いてくれたらうれしい」と生徒たちを見つめました。



生徒たちに明るく声掛けをする会員の皆さん

優良な農作物種子を次世代へつないでいくために 県へ山形県主要農作物種子条例(仮称)に係る要望書を提出

稲や大豆など、主要農作物種子の国内自給の確保に貢献してきた「主要農作物種子法」が4月1日に廃止となり、県では現在、「山形県主要農作物種子条例(仮称)」の制定に向けて取り組んでいます。

これに対して、町では9月12日に佐藤町長と遠藤幸一町議会議長、新野俊之種子生産組合長が県庁を訪問し、同条例制定に係る要望書を県へ提出しました。



県農林水産部の駒林雅彦部長に要望書を手渡す佐藤町長